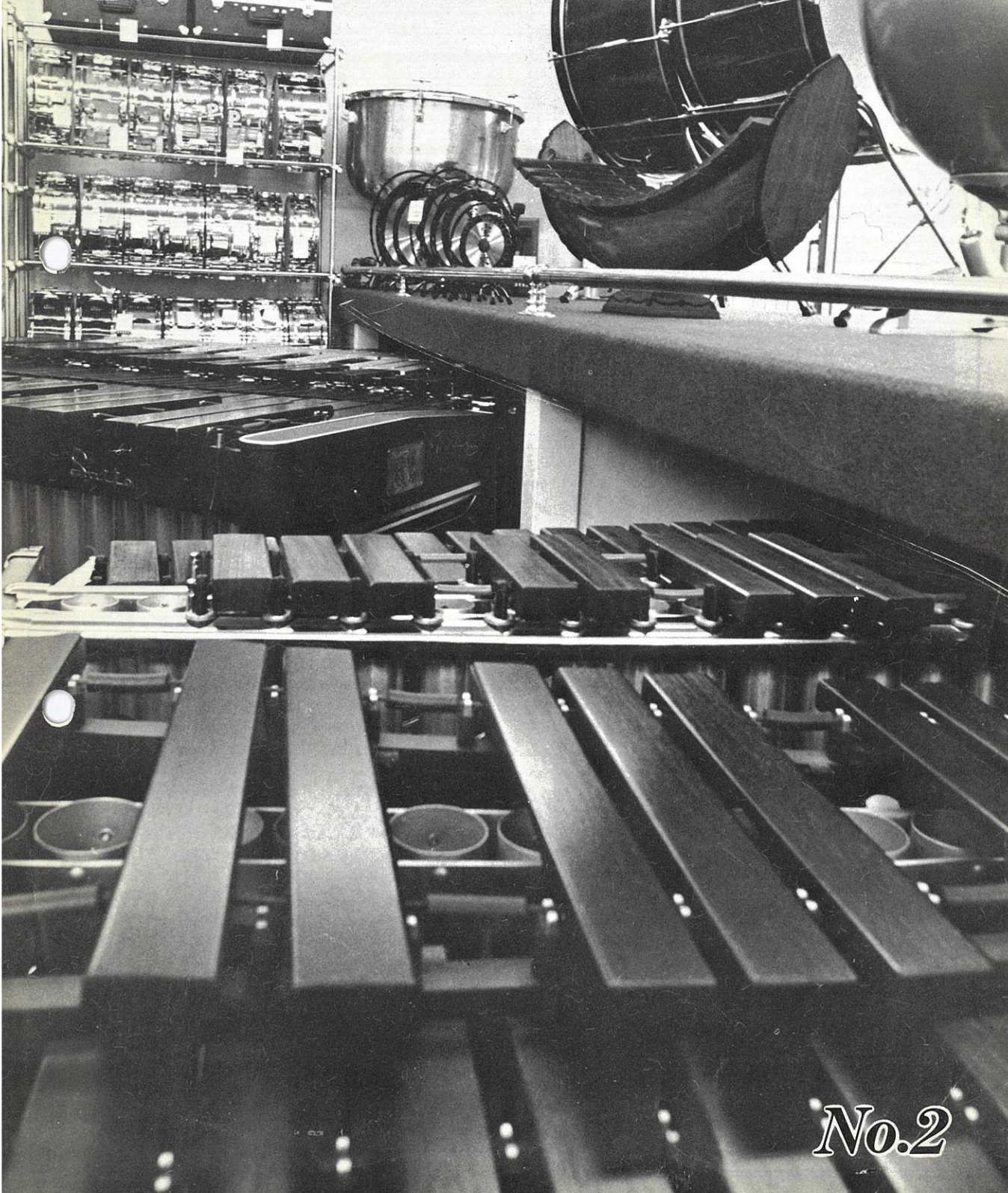
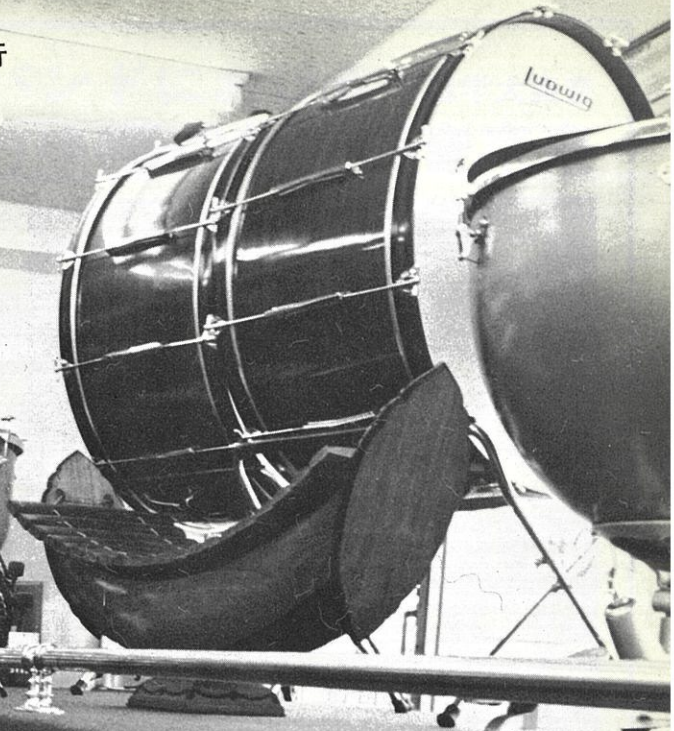


昭和52年4月1日発行

J.P.C



No.2

音楽大学紹介 (2)

東京音楽大学の巻



所・東京都豊島区南池袋3-4-5
電話・(03) 982-3186(代表) 〒171

明治40年、東京市神田区裏猿樂町に東洋音楽大学として創立し、当時昼夜約100名が在学していた。しかし関東大震災、戦争等により廃虚化したが、昭和29年新たに東洋音楽短期大学を開校し、昭和38年、東洋音楽大学を設立した。その後、東京音楽大学と改名し、付属校に高等学校(音楽科)、幼稚園、児童音楽研究会、等を置くに至った。現在、大学音楽学部には、声楽科、作曲科、指揮科、器楽科、音楽教育科等があり、また芸術学士を対象とする研究科も置かれている。打楽器科には、学部、研究科合わせて13人の学生が在学し、講師に有賀誠門先生、岡田真理子先生、オーケストラに野口力先生、菅原淳先生を迎え、レッスンが行なわれている。

私がこの取材に行った時、幸運にも有賀先生のレッスンを拝見する事ができた。それは全員でティンパニーを囲む、グループレッスンだった。私はどのようなレッスンが行なわれるのかと思ひながら見つめた。そしてその中で見つけた事は、学生達には常に微えみがあることだった。グループレッスンとはいえ、だれ一人おっくうになる学生はなく、先生と学生とが打ち解け合った楽しいものに見えた。レッスンがおわってから何人かの学生と話しをする事になった。その中で彼等はこう語ってくれた。「年に一度の打楽器演奏会は、会場準備からチケットに至るまで自主的にやっています。」つまり全て彼等自身の計画と手によるものだった。私は彼等との会話に、そしてレッスンの中に共通したものを見つけた。それは、チームワーク、すなわち“和”である。“自分さえ良ければ”という若者がふえている現在、彼等にはその感じさえつかめなかった。私は今の彼等がそのまま巣立ってくれればと思ひながら学校をあとにした。

ホームレッスン はいけん



訪問先…百瀬和紀先生(NHK交響楽団)

「スティック・コントロール」を通して、左右のバランス、リズムについての話がかわされて行く。彼女も「ハイ」と答えてあとは無言のままスティックを動かす。私が着いてから、ほぼ一時間はたつたろう。やがてレッスンもおわり、話しが始まった。内田ゆかりさん、彼女はJPCの会員でもあった。4歳時からピアノを習い始め、今春は高校3年の17歳。来春は音楽大学を受験するとのことで、4年前から始めた打楽器は今、仕上げの段階に来ている。彼女が打楽器にとりつかれたのは、2、3年前、現代音楽展と、ある打楽器合奏団の横須賀公演を見てからだそうで、「一人でいくつもの楽器をこなす姿が印象的でした。」「将来、打楽器アンサンブルのグループを組んで演奏活動をしたい…」と話してくれた。「将来、ピアノの方はどうするのですか」という質問に、「ピアノも弾きます。でもやはり打楽器の方に力がかたむいて行くでしょう」と、答えてくれるあたりは完全に打楽器の魅力にとりつかれているようだ。百瀬先生も、「小さい時からピアノを弾いていたせいか、音楽的な基礎が出来ているし、やれということをやってくる子です。」「これからは自分の目的に向って進んでほしい。ただスティックを持って年数がたたないせいか、もう一つ持ち方に問題があり、それさえ克服すれば良いと思います。」と、やさしさの中にポイントをおさえた言葉が返ってくる。彼女との話しがおわると、百瀬先生は「これからの打楽器は音と感覚が勝負だ」と私達に力強く語りかけてくれた。その時は、たのもしい兄貴に会ったような感じがした。ゆかりさんが帰られたあと、百瀬先生と私は、夜の渋谷へと出かけて行った。

にぎやかな渋谷駅を後にしながらバスは走る。やがて、バスのウィンドガラスに美しく型どられた東京タワーが浮んでくる。夜空に浮んだ東京タワーに見とれているうちに、西麻布にある百瀬先生のお宅に着く。奥さんに迎えられレッスン室に通される部屋の中は「ピアノ」、と苦勞して収集したという「アंकロン」、「シェル」、そして棚にはきちんと整理された「鈴」「ベル」など。ゆったりとしたソファが置かれているのは、いかにも百瀬先生らしい。私が着いた時にはすでにレッスンが始まっていた。今回は葉山にお住まいの内田ゆかりさん。譜面台には「ズティック・コントロール」が置かれ、彼女の前には練習台が2台置いてある。「どうして練習台を2台使うのですか」と聞いた所、百瀬先生は「アタックがはっきりすることと、左右の手のバランスを把むことができる。」「練習台を2台使うのが私のレッスンの特徴です」と話して下さった。「なるほど」とうなずきながら私はレッスンを見ている。

マーチング・バンドにおける 打楽器の役割

J M B D A 事務局 長 原田元吉
N H K 交 響 楽 団



年々さかんに来てきている、マーチング・バンドは今や完全に一つの分野を切り開いたと言っても過言ではないでしょう。幼稚園の鼓隊に始まって一般のビューグル・バンドまで幅広く私達の目と耳を楽しませてくれます。しかし残念ながら技術あるいは、全体を見わたすと、もう一つの所で伸び悩む所があるようです。打楽器を考えてみても、もう一步のレベルアップが必要です。マーチング・バンドにおいて打楽器はどのような位置にあるのか、とすることを考えたことがありますか。私が今まで接して来て感じる事は、まず変化にとほしいことです。それはドラム・ソロあるいは曲の中でもっと強弱をはっきり出し、いろいろなリズムを組合せて（変拍子を取り入れる）、変化を出すのも一つの方法だと思います。

また楽器の組合せ（マーチング・ドラムと言ってもいろいろなものがあります）を考え直すのも手だと思います。このよう
強弱、リズム、楽器を考えることによってさらに一步進ん

だフォーメーションが出来るはずで。そしてリズムの取り方をさらに研究して下さい。たとえばロールにしても、日本ビューグルはオープン・ロールを使っています。ロールのつぶをはっきり出すことによって、聞き手にアピールしています。中央ではわずかながら確立されてきてはいますが、地方ではまだ十不の一の所が見えます。吹奏楽部が場合によってマーチング・バンドとして活躍するために、打楽器の使い方や組合せ方がまちまちだったりもしています。もっとマーチング・ドラムと言うものを十分に知り、個々の楽器の効果をつかむ事が最も大切ではないでしょうか。

私が今までに一番印象付けられたのは、パデュー大学、カルフォルニア大学等で、見せる聞かせると両面に亘って素晴らしいショーをくり広げてくれました。それはレベルが高くバラエティーに富んだもので、アメリカスタイルをまざまざと見せつけられたのです。

そこで、マーチングというものを私なりに考えてみますと、まず「おもしろさ」、「アイデア」、「感覚」ということが出てきます。これは、その団体（バンド）が自分達の手で、頭で考え出すということにあると思います。

現在はアメリカンスタイルが多く取り上げられていますが、今後は、ヨーロッパスタイルも入って来るでしょう。私達は、それらを見つめ、日本的なマーチングスタイルを作らねばなりません。ショーの中に日本太鼓を入れたりするのも良いでしょう。最近さかんにやってきた「ドラム・コア」コンテストやバトン・コンテストなど新しい分野がふえ続けています。そんな中で今年6月10日より二週間、インディアナ大学のマーチング打楽器の指導者であるイングランド氏（ミシガン大学出身）の来日が予定されています。イングランド氏の来日は、今後の私達にとって大きな力になると思います。

今後、私達は、ドラム・コアやマーチング・バンドを通して、吹奏楽の層を広げて行かなければなりません。私も今後、数多くの研究と、より一層の努力をするつもりです。

第1回 JPC コンサート

「マリンバと打楽器アンサンブルの夕べ」

〔日時〕 5月11日(水)午後7時〔場所〕 ABCホール(芝)

〔演奏とお話し〕 安倍圭子(マリンバ)と
岡田知之(打楽器合奏団)

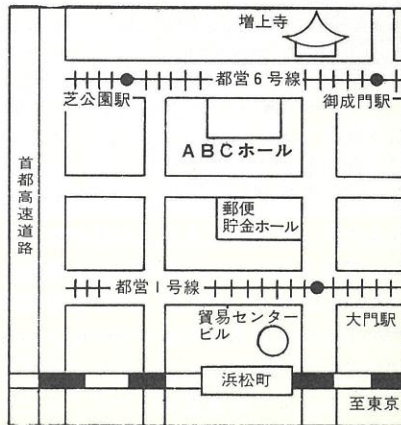
〔曲目〕 マリンバのためのメニスカス
パズル
セレナータ・マリンバーナ
オリエンタル・マンボ
アンコール・イン・ジャズ etc……

〔入場料〕 JPC会員1,000円/一般1,500円

〔主催〕 JPC 〔後援〕 株コマキ楽器
〔マネージメント〕 ミリオン・コンサート

尚、当日、会員カードは必ずお持ち下さい。

ABCホール案内図



チケット、その他詳細はJPC事務局(山田)まで
問合せ下さい (03)-845-3041

誌上クリニック 打楽器の奏法

小太鼓の巻 その(2)

塚田 靖

さて、第一回で「一つ打ち」のあら筋を書きましたが、今回はもう少し細かい点について説明してみましょう。(機関紙No.1を参照)

(1) バチの持ち方 (右手)

バチ先が「腕と同じ方向で一直線……」とあるのは、人差指で、何にかの方向を指でさす時のようにしてみてください。指は腕から手の甲を真上にして、一直線になると思います。つまり「手の甲」を真上にしてかまえた時に、腕からバチ先までが一直線になることが大切です。よく手の甲を外側にして「腕・親指・バチ」が一直線になってしまう人がいます。これは小太鼓以外(たとえばSet Drumのトップシンバル等)の物を打つ時には、とてもよく音が出て来ることがありますが、小太鼓の「皮」を打つ時など、細かい動作がしにくくなり、よい演奏が出来ないことが多いようです。

(2) バチの持ち方 (左手)

前回、「親指と人差指が同じ所に」と書きましたが、これは指を使い分けることがあるからです。一般的には親指でバチを「上からおさえるように働かせて」バチをコントロールしますが、時には人差指を使ってバチをコントロールする方が、より細かい動作が出来ることがあります。これは人によりいろいろ異なるとは思います。私は主に、「細かいロールや、PPのロール等」の時には親指を主に使いますが、「早い1つ打ちを中心としたようなリズム、又はハグレのよい細かい音譜」を演奏する時などは、人差指をかけて使います。

しかしこれは上手になってからいろいろ出来るのであって最初は、前回の写真のように勉強して下さい。(バチは最初から正しく持ちませんと上手になって来た時に、たいへん苦勞します。くれぐれも注意して下さい)

さて、前回の譜例の⑫まで、上手にできましたか。譜例だけを見ると、やさしそうに見えますが、左右の手が思うようには動かないものです。特に左手は、皆さんが自分で考えているよりも、もっとも動かないと思います(左ききの人は右手)。さて、左手が動かない原因は手首を左右に廻転させるという動作が、日常生活ではあまり行なわれないからです。ドアのノブでも普通は右手で廻します。このように日常あまり使っていないために、左手は右手より力も弱く、動きもにぶいものですから、二重、三重のハンディキャップがあるわけです。そこで左手を同じように動かすためには、**<右手の2倍以上>**の練習をしなくてはな

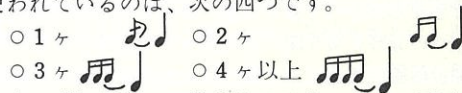
りません。今回は左手を中心にした1つ打ちを譜例の中に上げてみました。

さて、この譜例の中では、左手⑬が中心になっています。つまり左手が右手をリードする……と考えて下さい。右手に左手はなかなかついて行きませんが、左手に右手は十分ついて行きます。まず頭の中を左手に集中させて下さい。そして目で見て、耳で聞いて下さい。

- (1) リズムは正しいですか。
- (2) 左手が右手より小さな音量になってはいませんか。
- (3) テンポを上げると肩や、腕、ひじに力が入りませんか。
- (4) 少し長時間続けて練習して下さい。
(同じことを止まらずに何度もくりかえします)。
- (5) 力を入れすぎて、打面にぶつけるような打ち方になっていませんか。時々、打面をおさえつけるようにしたり、金づちでクギを打つような「打ち方」をする人がいますが、けっして良い音は作れません。いつでも必要以外の力は、**1gも入れないように軽く、リズムよく**に打つように注意しましょう。

The Flam (装飾音符)

次に装飾音符について考えてみましょう。主に小太鼓の中に使われているのは、次の四つです。



この中で「初級者」が使うものは主に1ヶ、又は2ヶの装飾音符がついたものだと思います。さて、この音符の付け方は、いくつもの方法があります。一般的には「装飾音符は拍の前に出す」というのが、最も多く使われています



ただし、装飾音符のタイミングは、全て同じではありません。曲の速さ、曲の感じ、ダイナミックの差 f or P などにより、いろいろ異なって来ます。しかし最初はまず次の点に注意しながらやるのが大切です。

- (1) ♪がより大きくなること。
- (2) 打った時の音の感じが、「トゥルッ!!」というような感じになるように。「ダダーン!!」となる感じではいけません。
- (3) 打ちおわったら初めのかまえにもどすこと。
- (4) 最初はゆっくり、一打一打でいねいに練習すること。
- (5) 予動(最初に振り上げる時の)をしっかり取り、そのテンポで打ちおろすこと。

さて、これらを頭に入れておいて、実際の細かい点に移りましょう。

の♪の音は、出来るだけ軽く、打面に「フワッ!!」と落す位の感じで打ちます。(打面からの高さも、かまえた時のバチの高さのまま落す)。(前回の写真参照)

日本の祭り

秩父の祭り

その1



玉川大学講師
パーカッショングループ 72主席 永曾重光

今回から「日本の祭り」と題して、日本各地に古くから伝わっている祭りを取り上げることにになりました（もちろんその中には日本太鼓と称する、日本独特の打楽器類も数多く見られます）。まず今回は、日本の三大祭りとして名高い「秩父の祭り」について話しを進めて行きます。

笠鉦2、屋台4が出る日本三大曳山祭の一つで、寛文年間(300余年前)に始められたといひ、京都紙園祭の山鉦、飛騨高山祭の屋台と共に全国に知られている。笠鉦は天道又は、御弊、セキ台、万灯、笠(3層)花を付け、神道民俗の要素を備えている。屋台は左右に下座を張り出すと、歌舞伎の舞台となり劇場発達史上極めて重要となっている(国指定重要民俗資料)。2日には鎌倉時代より続けられている神馬奉納の儀もある。3日は朝8時頃より曳き始め、屋台は曳きおどりを行い、正午頃より当番の屋台町では街路で屋台芝居を行なう。夜になると(午後7時)笠鉦、屋台を神社から約500Mほど離れた御旅所に曳き上げ、他に類を見ない豪華な絵巻をくり広げる。又、御旅所でも所作奉納があり、代参宮神楽もある。午後10時頃、屋台、笠鉦を前景に羊山公園で打上げられる仕掛花火も美しい。尚、本祭は3日に行なわれる。

~~~~ニュー・ローカル・マガジン

「あちゃむしだんべ」創刊号より~~~~

我々が西武秩父駅に着いたのは、12月3日、午後4時前、秩父というイメージからすると少々立派すぎる駅にっかりして改札口を出る。駅前広場にはステージが作られ、さすがお祭



り気分。和服の女性が何やら唄をうたっている。その回りには出店がいっぱい。山国にふさわしく、イノシシ汁、そば、味噌おでん、にぎりめし、みたらし団子等々。どっちへ行ったらいいのか見当もつかないので、おでんを売っている人のよさそうなオパチャンに聞くことにする。タグでは悪いから、おでんを一皿買う。どうも我々のように予備知識全くなして来る人間は少ないらしく、最初キョトンとした顔をしていたが、教えてくれた。口数の少ない、それでいて微笑を絶やさない話しぶり、いかにも田舎の人らしい。教えられた方へ歩いて行くと、道の両側はズラリと出店ばかり。5分程歩いてやっと少しひらけた所へ出る。ここは公園(?)で祭のクライマックスで屋台が集結する所(御旅所)だそう。そしてこの公園の入口に有名な団子坂がある。ここは屋台の曳行の際、一番の見どころといわれる所である。思っていたほど大きな坂ではないが、これでも重い屋台を曳き上げるのはさぞ大変なことだろう。坂に沿って棧敷が作ってある。一番良い場所に観光協会があったので聞いてみたが満席、その他は全部個人営業の席である。沿道の家が縁側に座布トンを敷いたり、床几を持ち出してゴザを敷いたり、特別席ベランダというのである。だいたいA席4000円、B席3000円程度である。(実際A、Bという分け方をしている)。



坂を下ってもう少し歩いてみる。道幅の狭い商店街が続く。こんなに狭くて屋台が通れるのだろうか、などといらぬ心配をしながら先へ行く。肉屋の店先に内臓を取っただけのイノシシが3頭ぶら下っている。さすが秩父である。もうこの辺まで来ると人の流れができてしまって、あまり自由には動けない。しばらく行くと、石の鳥居、秩父神社と書いてある。あとでわかったのだが、秩父の夜祭とはこの秩父神社の祭りだそう。何とも恥ずかしい話である。境内へ入るとここも出店がいっぱい。人の流れに巻き込まれてもう少し先へ進む。急に広がってやっと少し自由に動ける。少し離れた所に山車が3基、提灯を取り付けている最中である。札が立っていて一基は中近笠鉦、一基は下郷笠鉦、もう一基は当地屋台と書いてある。屋台のことは何もわからないが、とにかくすごい。見事である。これがクギ等を全く使わずに組み立てられていると思うと、あらためて日本人の器用さに感心する。神社のもう一つの出口の方へ行くとし垣の上にカメラとマイクがずらりと並んで一分のすきもない。どうもここから屋台が出て行くらしい。さて我々はどうしよう。ここで頑張るか、さっきの個人営業の棧敷を買うか。なかなか結論が出ない。そのうち四方の山々には景気づけの花火の音がこだまはじめた……………。(つづく)

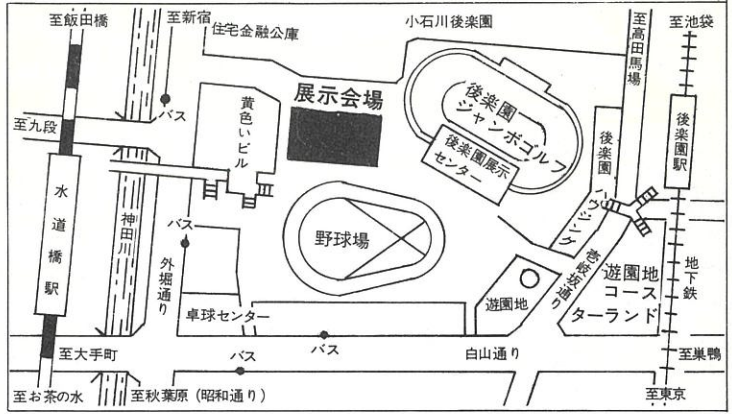
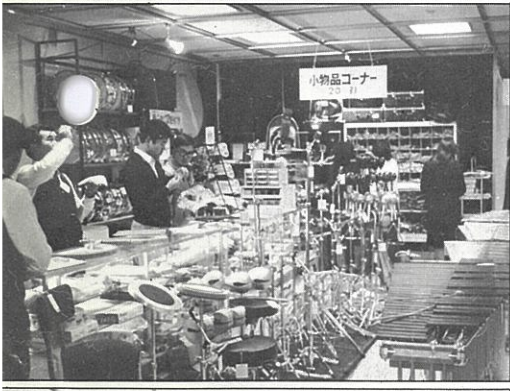
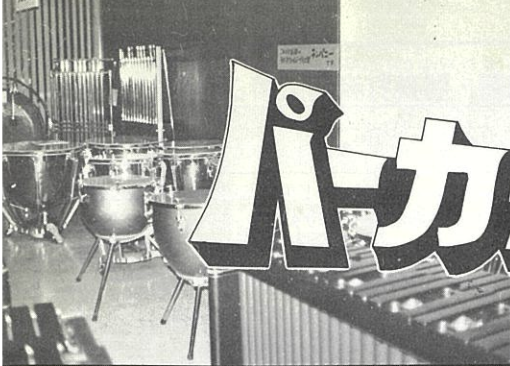
(屋台ばやしの録音テープをダビング  
します。問合せは、JPC事務局まで)



第3回

# パーカッションフェア

percussion Fair



——世界のパーカッションが一堂に集ります——

日時 昭和52年 4月22日(金)～24日(日)  
 会場 後樂園ホール展示場 (5F・6F)  
 東京都文京区後楽1-3 (併後樂園スタジアム・後樂園ホール)  
 電話03(811)2111 (大代表)

### 展示即売

マリンバ、シンロホン、ヒブラホン、ティンパニー、  
 各種ドラム、ゴング、シンバル、ラテンパーカッション、  
 マレット、ステック他附属品 10,000点

### 打楽器クリニックと演奏(予定)

- 22日(金)3時より 国立音楽大学講師 網代景介
- 23日(土)1時より ロックドラマー つのだ☆ひろ
- 4時より 東京芸術大学講師 高橋美智子
- 24日(日)11時より ジャズドラマー ジョージ川口
- 2時より 読売交響楽団 菅原 淳

お買徳品コーナー  
 珍品打楽器コーナー  
 パーカッション相談コーナー

主催/株式会社 **ヤマキ楽器**  
 〒111 東京都台東区雷門1-16-4 電話・東京03(842)6041(代表)

**Japan Percussion Center**

〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 (武藤ビル2F)  
 電話・東京03(845)3041~2



# コマキ楽器ニュース

76年11月、スイス・ロマン・管弦楽団が来店された時、「KMK」マークで信頼されているドラ(40")を購入。また常任指揮であるサバリッシュも個人でドラ(40")を購入された。それに引きつづき、去る3月、伝統と精練された音楽で話題をまいたウィーン・フィル・ハーモニー管弦楽団がやはり、ドラ(40"と32")を購入された。その夜NHK交響楽団の打楽器奏者をはじめ、壮々たるメンバーが渋谷のスナック「S」に集合した。もちろんコマキ楽器からも出席。購入したドラの話から「音」の追求となり東洋音楽から世界の音楽へと広がった。そこは伝達のウィーン・フィル。トライアングルの話して、ゆずらない。それが音楽家なのかもしれない。しかしたとえ言葉が異なっても追求するものは変わらないと思うのだが……。

(写真はウィーン・フィルとの楽しい交歓会の一コマ)



## コマキ楽器・特殊打楽器入荷ご案内

| 品名     | メーカー名  | 番号    | 規格                                                                            | 価格      |
|--------|--------|-------|-------------------------------------------------------------------------------|---------|
| マリンバ   | マッサー   | M-30  | 4オクターブD3(中型)                                                                  | 708,000 |
| グロッケン  | プレミアム  | 570   | 21/2オクターブC                                                                    | 78,000  |
| シンバル   | Aシルジャン |       | C-C1オクターブ各枚セット                                                                | 130,000 |
| ビブラホン  | プレミアム  | 751   | 3オクターブF-F                                                                     | 568,000 |
| "      | マッサー   | M55   | プロモデルF-F3オクターブ                                                                | 870,000 |
| テンバニー  | ラデック   | 880   | プロフェッショナルナルモ<br>デル26、29吋                                                      | 752,000 |
| "      | "      | 1894  | 4.5吋フルトニニバーサ<br>ルG23.26、29、32                                                 | 732,000 |
| "      | "      | 1892  | 5.5吋フルトニニバーサ<br>ルG23.26、29、32                                                 | 362,000 |
| スネアドラム | "      | 808P  | 18×40吋マホガニー仕上                                                                 | 200,000 |
| "      | "      | 806P  | 16×36吋 "                                                                      | 173,000 |
| "      | "      | 804P  | 16×32吋 "                                                                      | 152,000 |
| スネヤドラム | "      | 400   | 5×14吋金銅サブラホニック                                                                | 66,000  |
| "      | プレミアム  | 410   | 5×14吋金銅シンチーフ                                                                  | 101,000 |
| "      | "      | 31M   | 5 1/2×14吋木銅セル張                                                                | 53,000  |
| "      | "      | 2000  | 5 1/2×14吋金銅                                                                   | 78,000  |
| "      | グレッテ   | 4157  | 5 1/2×14吋Pearl                                                                | 70,000  |
| バルードラム | ラデック   | 590   | 12×15吋テナー                                                                     | 100,000 |
| スネアドラム | "      | 2357P | 6.8吋プラスヘッドスタンド付<br>SUSPENDED STAND                                            | 59,000  |
| シンバル   | "      | 789   | 36吋40吋用                                                                       | 129,000 |
| 銅      | 羅      | KMK   | 40吋(中国製)                                                                      | 450,000 |
| "      | "      | "     | 32吋 "                                                                         | 200,000 |
| "      | "      | "     | 28吋 "                                                                         | 150,000 |
| "      | "      | "     | 21吋 "                                                                         | 85,000  |
| マインツグズ | ラデック   | 571TP | 12×18吋16、14吋<br>ブルーフェイス<br>12×20、18、16吋<br>ブルーフェイス<br>12×22、20、18吋<br>ブルーフェイス | 218,000 |
| "      | "      | 572TP | "                                                                             | 251,000 |
| "      | "      | 574TP | "                                                                             | 281,000 |
| ティンパレス | "      | 2351  | 銅製スタンド付                                                                       | 95,000  |
| スネヤドラム | "      | 411   | 6 1/2×14吋センティブ                                                                | 103,000 |
| スネヤドラム | "      | 405   | 3×13ピッコロ                                                                      | 61,000  |
| スネヤドラム | "      | 402   | 6 1/2×14サブラ                                                                   | 69,000  |

## J・P・Cたより

先日、ある金管バンドで演奏旅行をした。所は純白の雪におおわれた新潟県長岡市。小学校を中心に旅するのである。さて学校に着くと控室になった校長室に通される。「寒い所、御苦労様です」と、あたたかいお茶が出される。お茶をすすりながら、ゆつたりとしたソファに腰をおろし、タバコをふかす。何とも言えない気分である。その時ふと私の頭に浮んだことがあった。それは学校はちがうがやはり校長室に呼ばれ先生にしかられたこと。小さく立たずみ頭を下げる。こんな想い出は私だけではないでしょう……。さていよいよ本番だ。冷えきった体育館に入り、チーミングを始めます。まず「メリーさんのひつじ」でオーブニング。プログラムも半ばまで来ると恒例の楽器紹介。トランペットから各楽器へと移り、チューバが「ぞーさん、ぞーさん」とやると、どっと歓声が上がります。いよいよ太鼓の出番だ。司会者が「どんな打楽器を演奏する時でも、基本となるのは小太鼓です。それでは専門の先生に、一つ打ちと二つ打ちをやってみましょう」と言う。生徒の目が小太鼓に集まる。「さあ、たいへんだ。基本なんていうのは入試以来だ。手が動いてくれればいいが……」と思いつきながら打ち始める。その結果……嵐のような拍手がわきおこる。……頭を下げながら、お茶とためいきをつく。あの子ども達の中で何人打楽器に興味を持ってくれるだろうか……、そして、いつの日かその子ども達と演奏できたら……、と思いつきながら自分のポジションにかえった。

JPCはそんな仲間の集う会です。入会をお待ちしております。折返し会員証を発行します。尚事務局が移転しました。お問合せ等は下記にご連絡下さい。  
たいへん遅くなりましたが、振込用紙が出来ましたので同封いたします。52年度会費未納の方は、お手数ですが、お振込下さい。

## 編集後記

「寒い寒い……」と、言いながらコートを立て、満員電車にゆられながら出社したかと思うと、今はもうポカポカ陽気。桜の話題も聞かれます。もう、南の国では春一番に吹かれて桜の花びらが舞っているのではないのでしょうか。

受験シーズンも終り、いよいよ入学式。小学校で、両親に手を引かれ緊張した趣で校門に入る児童の姿が目に入ります。

JPCも発足して、もう一年になろうとしています。打楽器の分野は思ったよりも広く、話題も豊富だということ。これを改め知らされました。これからも、いろいろな分野を見つめ、研究して行くつもりです。

昭和52年4月1日発行  
発行所

J・P・C事務局

〒111東京都台東区西浅草1-7-1  
(武蔵ビル2F)

TEL 03-845-3041代  
振替口座 9-1153115

発行人 山田正俊